

「人の感動に、貪欲。」をコンセプトに、さまざまな企業のイベントプロデュースを行うBackbone社のプロジェクトの裏側をお伝えする「BACKBONEDetails」。第9回目となる今回からは、格闘技イベントの企画・運営・主催を手がけるRIZIN事務局（株式会社ドリームファクトリーワールドワイド）をお迎えした全4回のシリーズの最終回です。4本目となる本記事では、2024年7月に3日間かけて開催された大規模イベント「U-NEXT presents SAITAMA 夏祭り sponsored RIZIN」の裏側をご紹介します。



街にひらかれた 大型フェスティバル

本件は最終的に約4万8000人の方々に来場いただいた「Yogibo presents 超RIZIN.3」のサブ会場「けやきひろば」でおこなったフェスティバル形式の大規模イベントでした。これだけの来場者数を見込む大型イベントを実施する上で、会場側のさまざまなルールを守る必要があったので、調整を重ねながら会場の使用計画を考えていきました。

RIZIN 本イベントは、僕らが毎年大晦日に実施している総決算イベントよりも規模が大きかったですし、これだけの来場者数を記録したのは僕らとしてもはじめての経験でした。格闘技イベントの歴史の中でも同じ会場が使用されたのは、2009年の魔裟斗選手の引退試合以来だったので、2024年にまたこの会場が埋まるほどの熱狂をつくり出したいという思いがあったんです。

本イベントの会場は格闘技の聖地としても知られており、開催に向けて市長とRIZIN事務局の代表が話し合いを重ねていたこともうかがったので、イベントにかけるみなさんの熱い想いを感じていました。

RIZIN そうですね。これまでにさまざまな試合がおこなわれてきた歴史のある会場ですし、運営の方々も僕らのイベントをととても大事にしてくれてい



ます。さらに今回のイベントでは、行政や自治体などに後援に入っていたでいたので、単に格闘技ファンのためだけではなく、近所の方々が訪れやすいイベントにしたいと考えていました。もちろん、大会当日は格闘技のコンテツが盛りだくさんでしたが、前日のイベントに関しては、仕事を終えたオフィスワーカーの方々が立ち寄れるビアガーデンや、夏休み期間中の子どもたちが楽しめる催しなどを設けることで、みなさんに楽しんでもらえるフェスティバルとしてのコンテツを考えていきました。

クオリティへのこだわりと 万全の安全対策

RIZIN 本件は準備を含めてさまざまな段取りやタイムスケジュール、コスト管理など、とにかく調整が大変だったんじゃないかなと思います。Backbone社さんはもちろん、チームで制作に取り組んでいただいた各協力会社の方々のプロ意識をととても感じたイベントでした。

また、コスト削減の視点から別の協力会社さんを入れる提案をこちらからさせていたで場面がありました。クオリティを維持するためにチームワークを崩したくないと、はっきりと判断されていたBackbone社さんの姿勢が印象的でした。ずっと同じチームでやっているからこそ生まれるクオリティを大事にしている気持ちが伝わりました。

僕らがプロデュースをする以上、中途半端な仕事はできないので、すべてのフロアのクオリティに僕らが責任を取れる体制を維持させていただいてます。何か問題が起きた時には、最終的には主催の方々にリスクを負わせてしまうことになりましたし、危機管理の観点からも、責任の所在をはっきりさせておくのがいちばん大事だと思っていいます。もちろん、コストとのバランスを取る必要があるのは重々承知しています。各協力会社の仕事を管理した上でクオリティの維持をしていくためには必要なことだと考えています。

RIZIN 危機管理の点では、最終日の27日にゲリラ豪雨が降った際にもアド

バイスいただき助かりました。残念ながら中止となってしまいましたが、あのような状況において重要な判断ができたと思っています。

これまでイベントのプロデュースに取り組む中で蓄積してきた安全対策の知見から、RIZIN事務局のみなさんと会場運営の方々に中止の判断についてご相談をさせていただきました。いざという時のレギュレーションを事前に組んでいたで、怪我などの事故が起きる前に中止の判断ができてよかったなと、僕らとしても安堵しています。

この度は4回にわたるインタビュにお答えいただき、ありがとうございます。

